

中央大學學制便覽



目次

一	記要	一丁
二	總則	五丁
三	學則	六丁
	(一)學科課程(二)學年、學期(三)入學、退學(四)試驗	
	(五)學費(六)給費生、特待生(七)貸費生、留學生(八)	
	學生心得(九)懲罰(十)補則(十一)英語專修科(十二)	
	珠算科	
四	附錄	四八丁
	(一)圖書館(二)中央高等豫備校(三)學友會(四)學員	
	會(五)實業同窓會	

目次

一	記要	一丁
二	總則	五丁
三	學則	六丁
	(一)學科課程(二)學年、學期(三)入學、退學(四)試驗	
	(五)學費(六)給費生、特待生(七)貸費生、留學生(八)	
	學生心得(九)懲罰(十)補則(十一)英語專修科(十二)	
	珠算科	
四	附錄	四八丁
	(一)圖書館(二)中央高等豫備校(三)學友會(四)學員	
	會(五)實業同窓會	

中央大學の新學年(大正四年度)

一、新學制

(1) 複講座制
先年泰西の制度に倣ひ同一の科目を二講師に擔當せしめ同一講座を觀置して學生の選擇に任ずる方法を新設し試に其一部に施行せしか成績頗る良好なれば漸次之を擴張し前學年を以て全部完成を告ぐるに至れり

(2) 晝間授業及夜間授業

複講座は各相異なる時間を以て授業せらるゝ故に其完成と共に従来の晝間授業の外午後五時以後に於ける夜間授業の組織も亦完成したれば學生の便宜に依り晝夜孰れにても隨意修習することを得へし

(3) 複講座制の便益

講座複置の結果學生の便益多大なるは言を俟たず即ち憲法に於ては美濃部博士あり上杉博士あり刑法に於ては大場博士の講座あり谷野及泉二講師の講座あり民法商法に於ても市村、富井、片山、牧野、島田等諸講師の講座あり又仁井田、嘉山、横田、松本、須賀等試験委員諸氏の講座あり學生は各自隨意に選擇して修習することを得へし
若し夫れ晝間夜間の授業科目の如きは兩者毫も相異なる所なく二講座以上あるものは何れの講座に出席するも可なれば學年試験の際に其師事したる講師の試験を受けることを得へく即ち晝に晝間夜間總ての授業科目に付き之を選擇し得るのみならず或科目は晝間或科目は夜間のものを選択するも亦自由なり

二、經濟科

本學經濟科は政治經濟に志す者と實業に志す者との二方面の學生を養成するを目的とす即ち初年級に於ては兩者相異なる所なしと雖も第二學年より刑法、政治學、憲法史、政治史、外交史と商業學、計理學、簿記、商業算術及珠算とを選択せしめて一は政治、經濟の智識を學得せしめ且高等文官、外交官、領事官試験等を受けるに便し一は經濟、商業の智識を學得せしめて實業家若くは計算人たらしむることを期し劃然兩者を區別したり
經濟科は夜學にして其授業は毎日午後五時以後とす(商科の授業時間は午前八時より午後三時までを標準とす)然れども經濟學、商業學にして晝間商科に授業ある科目を選擇修習せんと欲する者には之を許容し又實業志望者にして商科に特設しある科目を學ばんと欲せば豫め學長の許可を経て隨意聽講することを得此場合に於て學年試験の際には商科、經濟科通有の科目は兩科中孰れにても選擇應試するを得へし而して經濟科に於ては法科と同じく講義録を發行するを以て業務の餘暇修學する者には殊に多大の便益あり

三、法科

我國の法制を論ずるに當ては其母法たる獨國法の研究を閑却すべからざるや言を俟たずと雖も由來實地應用の妙を極むるは英國法にして此長所を學得せしめんことを期するは實に我覺創立の主旨たり爾來二十有九年其間業を卒へたる者六千に垂んごし各社會の諸方面に活動して知名の士指を屈するに遠あらず我學風の如何に付ては世上自ら定評の存するあり今や各覺英國法を教へざるものなしと雖も我國法と之を併課するが故に勢ひ少數の時間を以て最も學習に困難なる同法を授けざるを得ず從て其學科組織に付き熟慮を要すると同時に英國法に精通せる講師其人に待たざるべからず本學は多年の實驗に鑑み幾多の改善を加へ新學年に於ては斯法の泰斗土方博士を始め池田、馬場、春木、二上の諸講師に囑託し一定の教科書に依りて之が大要を授け其足らざる點は講義に補ひ尙ほ我國法と對照して論評せらるへし
獨國法は大場博士を始め武田「ドクトル」、太田、長島の諸講師之を擔當して懇切に教授せらるへし

四、商科

商科は歐米最新の制度を參酌して閣博士の立案せられたるものに係り其學科組織、授業方法等専ら實用を旨とし創立以來卒業生を出すこと三回幸に世の同情を博し三井、三菱、日本郵船、滿鐵、東京瓦斯、日本麥酒の諸會社を始め其他銀行、會社、商店等に傭聘せられ總て就職することを得たり

五、獨特の圖書館

本學圖書館は英吉利法律學校創立當時の設置に係り内外の書籍數萬部を備へ殊に英國法律書に至ては帝國大學圖書館に比して遜色なしと稱せられしか一昨年歐洲刑事法學の泰斗にして有名なる藏書家フオン、ベルクマイヤー博士の文庫全部八千三百餘卷を本館内奥田文庫に讓受けたれば此種書籍の完備したるものは本邦中他に類例なき所にして學生の參考書に於て復た遺憾なし

大正三年八月

拜啓炎暑難堪候處愈御清穆奉賀候陳者我中央大學學長岡村輝彦先生舊職來宿痾に惱み居られ屢辭任の御申出有之候折柄偶先般の政變にて奥田義人先生司法大臣を辭して閑地に就かれたるに付き再び同先生を煩はすの餘儀なきに至り交渉の結果奮て學長の任に當らるゝ事と相成去る六月二十三日主務省の認可を受け申候岡村博士病の爲めに辭任せられたるは遺憾至極に存候得共其後任として奥田博士を迎へ得たるは御同慶の至に候

今や年來の宿題たる官學特權問題も法律第三十九號同第四十號に依り全然吾人私學の主張を認容して官私平等を爲し一に其實力競争に委せられたるか如きは實に私學界の一新紀元にして我中央大學に於ても是より爲すへき事業多々有之候得共來る九月の新學年より益講師の選任を慎み授業方法は實力の養成を旨とし且つ圖書を充實して參考書に遺憾なからしめ加之廣く俊秀なる學生を求むる爲に別紙貸費の制度等も設けられ候幸に舊學年に於ては各科學生の數著しく増加致候に付此際學員諸君に一層の御盡力を煩はし漸次多數の俊秀なる學生を得候はゞ本大學か斯界の優者たることを得るの日も遠きにあらざるべく存候右御報告を兼ね御依頼迄如斯に御座候敬具

大正三年八月 日

中央大學幹事 佐藤正之

20100504

中央大學の豫學部(大正三)

一、豫學部

(1) 豫學部

大學記要

○沿革 明治十八年七月英吉利法律學校ヲ創設シ同二十二年十月東京法學院ト改メ同三十六年八月大學組織ト爲シ東京法學院大學ト改メ同三十八年八月創立二十年ニ際シ事業ヲ擴張シテ中央大學ト改稱ス

○學科部門 大學部ニ法科(英法科)經濟科及ヒ商科ヲ置キ之ニ入ルノ階梯トシテ大學豫科ヲ設ケ外ニ法律、經濟、商業ノ諸學科ヲ研究スル捷徑トシテ專門部ヲ置キ大學部ハ其豫科ヲ通シテ修業年限ヲ四ヶ年半トシ專門部ハ三ヶ年トス

○修業程度 大學部ハ豫科卒業者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシメ法律、政治、經濟及ヒ商業ニ關スル學術ヲ教授シ尙ホ英語若クハ獨語ニ依リ外國ノ法政經濟ヲ參加講修セシム

豫科ハ中學校卒業者及ヒ文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同等ノ學力アリト

認メタル者ヲ入學セシメ大學部ニ入ルニ須要ナル學科ヲ教授ス
 專門部ハ中學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル學生ニシテ直ニ專門學ヲ修メン
 トスル者ノ爲メニ之ヲ設ケ專ラ邦語ヲ以テ所定ノ學科ヲ教授ス而シテ此部門ヲ正科、
 別科ノ二ニ分チ正科ハ中學校卒業者及ヒ文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同
 等ノ學力アリト認メタル者ヲ入學セシメ別科ハ本大學ニ於テ相當ノ學力アリト認メタ
 ル者ヲ入學セシム

○**研究科** 大學部又ハ專門部ノ卒業者ニシテ既修學科ニ付キ尙ホ深達ナル研
 究ヲ遂ケントスル者ノ爲メニ之ヲ設ク

○**各種特典** 中學校卒業者クハ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同一ノ資格ヲ有シ各
 科ニ入學シタル學生ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ徵兵令ノ特例ヲ受ケ在
 學中徵集ヲ猶豫セラレ卒業ノ後ハ一年志願兵タルコトヲ得

本學法科ヲ卒業シタル者ハ大學部ト專門部トヲ問ハス明治三十八年司法省令第十三號

判事檢事登用試験規則ニ依リ應試資格ヲ有ス但專門部別科生ハ明治四十年七月三十一
 日迄ニ卒業シタル者ニ限ル又本學法科、經濟科ヲ卒業シタル者ハ大學部ト專門部トヲ
 問ハス大正二年勅令第二百六十一號文官任用令ニ依リ判任文官タル資格ヲ有ス

○**學士號** 大學部及ヒ研究科卒業者ハ學士號ヲ稱スルコトヲ得

○**圖書館** 圖書館ニハ内外古今ノ書籍ヲ備置キ卒業者及ヒ學生ヲシテ隨意閱
 覽セシム又館内奥田文庫ニハ新ニ獨逸ノ碩儒フオン・ビルクマイヤー氏ノ蒐集ニ係ル豐
 富ナル法律文庫ヲ備フ

○**出版** 法律、經濟ノ兩科講義錄ヲ發行シテ之ヲ在外員ニ頒チ且ツ校内生
 ノ參考ニ資ス

大審院及ヒ行政裁判所ノ判決ニ就キ當該官廳ニ於テ其要ヲ摘ミ編纂セラレタル大審院
 判決錄並ニ行政裁判所判決錄ヲ發行シ又本學講師ノ著述ニ係ル必要ナル教科書及ヒ參
 考書ヲ刊行シテ研究ノ便ヲ與フ

豫科ハ中學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力アリト認メタル者ヲ入學セシメ大學部ニ入
ルニ必要ナル高等ノ普通學科ヲ教授ス

第四 本大學學生ハ別科生及ヒ別科卒業者ニシテ研究生タルモノヲ除ク外徵兵令第十
三條第一項及ヒ第二十三條第一項ノ特例ヲ受ケ在學中徵集ヲ猶豫セラレ卒業ノ後ハ一
年志願兵タルコトヲ得

第五 各科ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス但法科及ヒ經濟科大學部卒業者、同
研究科卒業者、舊東京法學院高等法學科卒業者、舊東京法學院大學研究科卒業者ハ中央
大學法學士、商科大學部卒業者、同研究科卒業者ハ中央大學商學士ト稱スルコトヲ得

二 學則

第一 學科課程

中央大學部

科目	級別		一 法 科		
	第一	第二	第一	第二	第三
憲 法	憲 法	比 較 憲 法	憲 法	比 較 憲 法	行 政 法
行 政 法	民 法 總 論、物 權 法、債 權 法、親 族 法	物 權 法、債 權 法	民 法 總 論、物 權 法、債 權 法	物 權 法、債 權 法	行 政 法
民 法	債 權 法、親 族 法	相 續 法	債 權 法、親 族 法	相 續 法	行 政 法
商 法	刑 法 汎 論	商 法 總 論、會 社 法、商 行 爲 論、手 形 法	刑 法 汎 論	商 法 總 論、會 社 法、商 行 爲 論、手 形 法	海 商 法、保 險 法
刑 法	刑 法 汎 論	刑 法 各 論	刑 法 汎 論	刑 法 各 論	海 商 法、保 險 法
訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法
破 產 法	民 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法	民 事 訴 訟 法
經 濟 學	經 濟 學	經 濟 學	經 濟 學	經 濟 學	財 政 學

商法	民法	經濟地理	經濟貨物論	經濟史	簿記及計理學	統計學	財政學	經濟學
	民法總論、物權法、債權法	經濟地理	經濟貨物論	經濟史及經濟學史	簿記	統計學		經濟學通論
商法總論、會社法、商行為論、手形法	物權法、債權法		同上		同上	人口及經濟統計學		貨幣論、農業政策、交通政策
海商法、保險法					計理學		財政學	信用、銀行論、商業政策、殖民政策、社會政策及工業政策、保險政策

科目 級別	二	◎英國法及七獨逸法ハ豫科ニ於ケル修業ノ外國語ニ從ヒ其一ヲ擇ハシム	實習科	獨逸法	英國法	法理學	羅馬法	國際法
	第一	經濟科		獨逸法	英國法		羅馬法	
	第一	年		獨逸法	英國法		羅馬法	
	第二		刑法實習、私法實習、國法實習	同上	同上			國際公法
	第二			同上	同上			
	第三		私法實習、民事訴訟法實習、國際法實習	同上	同上	法理學		國際私法
	第三							
	第三							

保 險	銀 行	賣 買 及 取 引 所	商 工 外 經 營 事 情 及 論	商 業 實 務	簿 記 及 計 理 學	科 目 級 別	三 商 科			
							第 一 年	第 二 年	第 三 年	
							簿 記	上	上	
			內 商 外 經 營 事 情 及 論	同	同		第 一 年	第 二 年	第 三 年	
	銀 行 (貨 幣 及 信 用 ヲ 含 ム)		同	同	上		簿 記	上	上	計 理 學
			同	同	上		簿 記	上	上	計 理 學

◎學生ノ志望ニ依リ第二年級以上政治史、外交史、政治學、簿記、計理學、商業實務トヲ選擇セシム

英 語	實 習 科	商 業 實 務	英 語 經 濟	社 會 學	外 交 史	政 治 史	政 治 學	國 際 法	憲 法 及 行 政 法
英			英 語 經 濟	社 會 學					憲
語			濟	學				法	法
同	私 法 實 習	商 業 實 務	同			政 治 史		國 際 公 法	
上	習	務	上					法	
同	同	同	同		外 交 史		政 治 學	國 際 私 法	行 政 法
上	上	上	上					法	法

專門部

一法科

行政法	憲法	法學通論	科目級別
	憲法	法學通論	第一
	法	法學通論	第二
行政法			第三

隨 意 科	工 業 通 論	演 習 科
	工 業 通 論	
國 際 法		
破 產 法		商 業 演 習

英 語	統 計 學	殖 民 政 策	財 政 學	經 濟 學	法 律 學	商 業 史	商 品 學 及 商 業 地 理	海 運	鐵 道
英 語	統 計 學			經 濟 學	民 商 法	商 業 史	商 品 學		
語 同				同	商 法		商 業 地 理		鐵 道
上 同		殖 民 政 策	財 政 學	上	同			海 運	
上					上				

科目	級別	第一	第二	第三
經濟學	經濟學通論	貨幣論、農業政策、交通政策	信用論、銀行論、商業政策、殖民政策、社會政策及工業政策、保險政策	
財政學			財政學	
統計學	統計學	人口及經濟統計學		
簿記及計理學	簿記	同上	計理學	
經濟史	經濟史及經濟學史			
經濟貨物論	經濟貨物論			
經濟地理	經濟地理			
民法	民法總論、物權法、債權法	物權法、債權法		

科目	級別	第一	第二	第三
民法	民法總論、物權法、債權法	物權法、債權法		
商法	商法總論、會社法、海商法、保險法	商法總論、會社法	海商法、保險法	
刑法	刑法汎論	刑法各論		
訴訟法		刑事訴訟法	民事訴訟法	
破產法			破產法	
經濟學	經濟學		財政學	
國際法		國際公法	國際私法	
實習科		刑法實習、私法實習	私法實習、民事訴訟法實習、國際法實習	
隨意科	羅馬法、論理學	比較憲法	法理學	

二 經濟科

科目		級別		三商科	
簿記及計理學	商業實務	第一	年	簿記	商業實務
商業經營論及 內外商業事情	買賣及取引所	第二	年	同上	同上
同上	同上	第三	年	計理學	同上
銀行	保險				
鐵道	海運				

◎學生ノ志望ニ依リ第二年級以上政治史、外交史、政治學ト簿記、計理學、商業實務トヲ選擇セシム

英語	商業實務	社會學	外交史	政治史	政治學	國際法	憲法及行政法	商法
英語		社會學					憲法	
英語	商業實務			政治史		國際公法		商法總論、會社法、商行為論、手形法
同上	同上		外交史		政治學	國際私法	行政法	海商法、保險法
同上	同上							

豫科

科目	級別	第一學期	第二學期	第三學期	業時數
物理、化學					二
歷史、地理					三
數學		八			四
外國語(英若獨)		一八	一五		一五
國語、漢文		六	五		五
修身		一			一

隨意科
國際法
破產法

工業通論	演習科	英語	統計學	殖民政策	財政學	經濟學	法律學	商業史	商品學及商業地理
工業通論		英語	統計學			經濟學	民法學	商業史	商品學
		同				同上	商法	商業地理	
	商業演習	同上		殖民政策	財政學		同上		

博	物				
法學通論	經濟通論 若クハ商 業通論			二	二
論	理			二	二
合	計	三三		三五	三五

◎學科及ヒ每週授業時數ハ都合ニ依リ變更スルコトアルヘシ但一週授業時數ハ各科ヲ通シテ二十八時間ヲ下ルヲ得ス
◎地理、物理、化學、博物ノ四科ハ場合ニ依リ其中ノ一科若クハ數科ヲ缺キ又ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトアルヘシ

研究科

研究科ノ修業科目ハ左ノ十科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

- 憲 法
- 行政法
- 刑法
- 民法
- 商 法
- 民事訴訟法
- 國際法
- 法理學
- 經濟學
- 商業學

選科聽講

本大學課程中一科目又ハ數科目ヲ選ヒテ聽講セントスル者アルトキハ銓衡ノ上各科ノ定員ヲ超エサル範圍内ニ於テ其聽講ヲ許ス

第二學年、學期

第六 大學部、專門部ノ修業年限ヲ三ヶ年トシ學級ヲ分テ第一年級、第二年級、第三年級トス

學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第七 豫科ノ修業期ヲ分テ三學期トス

第一學期 自四月一日至九月十日

第二學期 自九月十一日至翌年二月二十八日

第三學期 自三月一日至九月十日

第八 研究科ノ修業年限ハ一年以上三年以下トス

第九 本大學ノ休業日ハ左ノ如シ

自七月十一日至九月十日

自十二月二十六日至一月七日

日曜日、大祭祝日及ヒ本學記念日(十一月)

第三 入學、退學

一 大學部

第十 大學部ニ入學ヲ許スハ年齢十八年以上ノ男子ニシテ本大學豫科卒業若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且ツ左ノ資格ヲ有スル者トス

中學校卒業者、師範學校卒業者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者、特ニ經濟科及ヒ商科ニ限リ甲種商業學校ヲ卒業シタル者

第十一 本大學ト同等學校ノ第二學年以上ニ在學シ且ツ前項ノ資格ヲ有スル者轉學ヲ願出ツルトキハ相當ノ學級ニ編入ス但本大學ノ學科課程中他校ニ於テ修習セサリシモノアルトキハ其科目ニ限リ試験ヲ行フヘシ

第十二 入學志願者ハ申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學教務係ニ差出スヘシ但入學試験ヲ受ケントスル者ハ申込ト同時ニ受験料金一圓ヲ納ムヘシ

第十三 入學期ハ毎年一回九月ヨリ十月ニ涉リ其期間ヲ三十日トス但同等學校ヨリ轉學スル者ハ此限ニ在ラス

第十四 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ但在學證用紙ハ必ス教務係ヨリ申受ケヘシ

第十五 保證人ハ東京市内ニ一家計ヲ立ツル成年者タルコトヲ要ス

第十六 保證人死亡シ又ハ前項ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十七 疾病其他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿五个月以上修學シ能ハサルトキハ其事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上學長ニ願出テ當該學年間休學スルコトヲ得

第十八 休學ヲ許可シタル學生ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入テ修學スルモノトス但休學年間ト雖モ事故止ミタルトキハ其旨ヲ届出テ出席スルコトヲ得

第十九 休學中ハ授業料ヲ免除ス
給費又ハ貸費ヲ受クル者ハ休學ノ月ヨリ之ヲ停止ス

第二十 學生ニシテ陸軍現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ第十七項ノ規定ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一 疾病其他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可

ヲ受クヘシ

第二十二 左ニ掲グル者ハ學籍ヨリ除名ス

一 學業劣等若クハ疾病ニ因リ成業ノ見込ナキ者

二 出席常ナラサル者

三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ハラズ引續キ一个年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一
个月以上闕席シタル者

第二十三 退學處分ヲ受ケタル者四个月以上ヲ經過シ改善ノ實アリト認めタルトキハ特
ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

二 専門部

第二十四 専門部ハ年齢十七年以上ノ男子ニ限り入學セシム

第二十五 専門部ノ學生ヲ正科生、別科生ノ二種トス

一 正科生ハ左ノ資格ヲ有シ入學スルモノトス

中學校卒業者、師範學校卒業者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者、特ニ經濟科及ヒ商科ニ限リ甲種商業學校ヲ卒業シタル者

二 別科生ハ前號以外ノ者ニシテ志願者ノ履歷ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許シタルモノトス但其履歷ニ依リ特ニ國語、漢文、數學ノ三科目ニ付キ試験ヲ行フコトアルヘシ
第二十六 專門部第二級以上ニ編入スルニハ前項ノ資格ヲ有シ尙ホ前各級ノ科目ニ付

キ試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス但編入試験手数料ハ金一圓トス
第二十七 正科生ノ入學期ハ毎年一回九月ヨリ十月ニ涉リ其期間ヲ三十日トシ別科生ハ隨時入學ヲ許ス

第二十八 第十一項、第十二項、第十四項乃至第二十三項ハ專門部學生ニモ之ヲ適用ス

三 豫科

第二十九 入學期ハ每學期ノ始トス但補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十 入學志願者ハ年齢十七年以上ノ男子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

中學校卒業者、師範學校卒業者、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者、特ニ經濟科及ヒ商科ニ限リ甲種商業學校ヲ卒業シタル者

第三十一 第十一項、第十二項、第十四項乃至第二十三項ハ豫科學生ニモ之ヲ適用ス

四 研究科

第三十二 入學期ハ毎年九月トス但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十三 研究科ハ大學部、專門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院及ヒ舊東京法學院大學ノ卒業者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許ス同等學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者亦同シ

第三十四 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル講師ノ指導ニ從

ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス但一般學生ノ爲メニスル講義ハ任意聽聞スルコトヲ得

第三十五 第十四項乃至第二十三項ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第四 試験

一 大學部、専門部、豫科

第三十六 每學年ノ終ニ於テ學年試験ヲ舉行ス但試験期日ハ試験開始ノ二十日前マテニ之ヲ揭示ス

第三十七 試験ノ方法ハ筆記及ヒ口述トス

第三十八 一科目ノ滿點チ一百點トシ各科目四十點以上平均六十點以上ヲ得タルモノチ及第トス

第三十九 疾病其他止△ヲ得サル事故アリテ學年試験ヲ完了セサル者ノ爲メ次學年ノ始

ニ追試験ヲ舉行ス但手数料トシテ金二圓ヲ納メシム

第四十 追試験ヲ受クル者ハ前ノ試験ニ六十點以上ヲ得タル科目ノ試験ヲ受ケサルコトヲ得

第四十一 前五項ノ規定ハ之ヲ豫科ニ準用ス

二 研究科

第四十二 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス

卒業論文ハ二人以上ノ指導講師之ヲ批判ス

第四十三 落第者ハ更ニ六個月以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第四十四 卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第五 學費

第四十五 大學部、専門部及ヒ豫科ノ入學料ハ各金二圓トス

第四十六 大學部及ヒ專門部ノ授業料ハ各一學年金三十圓トシ左ノ二期ニ徴收ス但當分ノ内月割金三圓ツ、分納スルモ妨ナシ

第一期 九月(金十五圓) 第二期 二月(金十五圓)

第四十七 豫科ノ授業料ハ第一期金九圓 第二期金十八圓 第三期金十二圓トシ左ノ三期ニ徴收ス但當分ノ内月割金三圓ツ、分納スルモ妨ナシ

第一期 四月 第二期 九月 第三期 三月

第四十八 研究科ノ授業料ハ一个年金二十圓トシ分納額一个月金二圓トス

第四十九 選科聽講料ハ一科目一个月金五十錢トシ一科目ヲ加フル毎ニ金三十錢ツ、ヲ増ス但一科目トハ學則(學科課程)ノ定ムル所ニ依リ一級中ノ一科目ヲ指スモノトス

第五十 學年(學期)ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料分納額ヲ免除ス

第五十一 學生在學中ハ全月闕席シタルトキト雖モ授業料分納額ヲ免除セス

第五十二 授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日マテニ會計係ニ納付シテ聽講券ヲ受取ルヘシ

第五十三 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス

第五十四 授業料ニ滞納アル者ハ完納ノ上ニアラサレハ學年(學期)試験ヲ受クルコトヲ得ス

第六 給費生、特待生

第五十五 學生中學術優等、品行方正ナル者ヲ選ヒテ給費生又ハ特待生トス

第五十六 給費生ハ當該學年間額金二百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第五十七 給費生、特待生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ其待遇ヲ解ク

第七 貸費生、留學生

- 第五十八 學生中學資支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間年額金二百圓以內ヲ貸與スヘシ
- 第五十九 寄附貸費ハ寄附者ノ指定ニ從ヒ前項ノ貸費年額以內ヲ貸與ス但特ニ貸費額ヲ限定セラレタルモノハ其額ヲ貸與スヘシ
- 第六十 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ
- 第六十一 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業後一箇年目ヨリ起算シ貸費ヲ受ケタルト等シキ期間內ニ其金額ヲ月賦返納スヘシ
- 第六十二 貸費生ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ直ニ貸費ヲ止ム
- 第六十三 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又ハ退學スルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但疾病ノ爲メ廢學シタル者ハ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

- 第六十四 本大學卒業者ニシテ學術優等、品行方正、將來有望ノ者ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ
- 第六十五 前七項ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ適用セス

第八 學生心得

- 第六十六 教場ニ出席スルトキハ必ス聽講券ヲ携帯スヘシ若シ之ヲ携帯セサルトキハ退場ヲ命ス
- 第六十七 聽講券ヲ遺失シタルトキハ其旨ヲ會計係ニ届出テ再ヒ之ヲ申受クヘシ但其再渡ヲ請フ者ハ手数料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ
- 第六十八 學生又ハ保證人氏名ヲ改稱シ若クハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滯ナク

之ヲ届出ツヘシ

第六十九 三日以上闕席セントスルトキハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但疾病ノ爲メ七日以上闕席スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第七十 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其事由止マサルトキハ其都度新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第九 懲罰

第七十一 學則又ハ校規ニ背反シ其他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタルトキハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第七十二 學業怠惰ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ品行不良改悛ノ目途ナキ者ハ退學ヲ命ス

第十 補則

第七十三 本大學ノ編入試験ニ依リ第二級以上ニ入學シ所定ノ試験ヲ經テ卒業シタル者判事檢事登用第一回試験ヲ受ケントスルトキハ其在學年數三學年ニ滿ツルマテ補修スルヲ要ス

第七十四 補修學生ハ本大學ノ指定スル學科ニ付キ修習スルモノトス

第十一 英語專修科

第七十五 英語專修科ハ業務ノ爲メ晝間受業ノ便ヲ有セサル人又ハ課業ノ英語ヲ補修セントスル學生ノ爲メ新式ノ教授法ニ依リ秩序的ニ速成ヲ期シテ英語ノ本領及ヒ活用法ヲ學習セシムルヲ目的トス

第七十六 修業年限ハ二年トス別ニ一年間ノ高等科ヲ設ク

第七十七 英語專修科ハ主トシテ中學校ヲ標準トシ第一年ハ中學第一、二、三年級第二年

ハ第四、五年級ニ相當スル學力ヲ養成ス

第七十八 高等科ハ中學卒業程度ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシメ譯解及ヒ作文ヲ主トシ

其他書取、聽取、會話等ヲ教授ス

第七十九 授業時間ハ午後六時ヨリ同九時迄トス

第八十 何人モ何時ニテモ試験ヲ要セス簡便ニ各自志望ノ組ニ入學スルコトヲ得

第八十一 學年ノ終ニ試験ヲ舉行シ及第者ニ修業證書ヲ授與ス

第八十二 入學料ハ金一圓、授業料ハ第一年級金七十錢、第二年級以上ハ金一圓トス

第八十三 毎月十五日以後ニ入學シタル者ニハ授業料ヲ半減スヘシ

第十二 珠算科

第八十四 珠算ハ迅速、正確ナル計算方法ニシテ本邦獨得ノ長技ナレハ商科學生ヲシテ

深ク之ヲ練習セシムルノ必要ヲ認メ斯科ノ臨時授業ヲ特設ス

第八十五 計算事務ニ従事スル人殊ニ學校出身者カ珠算ノ練熟ヲ缺ク通弊ヲ矯正スル爲

メ選科聽講ノ規定ニ依リ志望者ヲ入學セシメ主任講師川村貫治氏（東京高等商業學校

講師）獨特ノ授業方法ニ據リ短期速成ヲ期シテ珠算ノ學理及ヒ運算ヲ授ク

第八十六 授業ハ午後六時ヨリ同八時ニ至リ三個月ヲ以テ完了ス

第八十七 學期ノ終ニ試験ヲ舉行シ及第者ニ修業證書ヲ付與ス

第八十八 授業料ハ一個月金五十錢トス

職員

學長 理事 奧田 義人

理事 伊藤 悌治

理事 岡野 敬次郎

幹事 佐藤 正之

社員 (イロハ順)

法學士 伊藤 悌治 石山 彌平 法學士 馬場 愿治

法學博士 原 嘉道 法學博士 花井 卓藏 法學博士 穗積 陳重

法學博士 岡村 輝彦 法學博士 奧田 義人 法學博士 岡野 敬次郎

法學博士 金井 延 法學士 高橋 捨六 中橋 德五郎

法學士 卜部 喜太郎 久米 良作 法學博士 增島 六一郎

法學士 藤田 隆三郎 法學博士 江木 衷 坂崎 儂

法學士 佐藤 正之 三宅 碩夫 法學博士 土方 寧

法學士 元田 肇 森本 邦治郎

講師 (イロハ順)

法科及經濟科

法學士 伊藤 悌治 法學博士 石渡 敏一 法學博士 一木 喜徳郎

法學士 岩田 宙造 法學士 磯谷 幸次郎 法學士 池田 寅二郎

法學士 市村 富久 法學士 岩田 一耶 法學士 岩本 勇次郎

法學士 飯島 喬平	法學博士 原 嘉道	法學博士 林 賴三郎	法學士 西野 元	法學博士 穗積 陳重	法學博士 富井 政章	法學博士 岡野 敬次郎	法學士 太田 資時	法學博士 大場 茂馬	法學士 太田 嘉太郎	文學士 渡邊 又次郎	法學士 加納 友之介
法學士 稻田 周之助	法學博士 花井 卓藏	法學博士 春木 一郎	法學博士 新渡戸 稻造	法學博士 星野 太郎	法學博士 豐島 直通	法學博士 小山 溫	法學博士 岡松 參太郎	法學博士 岡田 實麿	法學士 太田 哲三	法學博士 金井 延	法學博士 川名 兼四郎
法學士 馬場 憲治	法學士 馬場 鎮一	法學博士 仁井田益太郎	法學士 西川 一男	商學士 堀 光龜	法學博士 岡村 輝彦	法學博士 岡田 朝太郎	法學士 岡 實	法學士 尾古 初一郎	法學博士 加藤 正治	法學士 片山 義勝	

法學士 鹿野 清次郎	法學士 嘉山 幹一	法學士 横田 五郎	法學博士 高橋 作衛	法學博士 立 作太郎	田中阿歌麻呂	文學士 瀧村 斐男	中島 信虎	法學士 村上 恭一	法學士 牛塚 虎太郎	法學博士 野村 淳治	法學士 櫛田 民藏
法學博士 河津 暹	法學士 金森 德次郎	法學士 高橋 捨六	法學博士 高根 義人	法學博士 高野 岩三郎	商學士 田崎 仁義	獨逸法學博士 武田 鬼十郎	法學士 中込 宗造	法學士 内田 嘉吉	法學士 上野 貞正	法學博士 桑田 熊藏	法學博士 山田 三良
法學博士 寛 克彦	法學博士 横田 秀雄	法學士 棚橋 愛七	法學博士 田島 錦治	法學士 谷野 格	法學士 立花 俊吉	法學博士 中村 進午	法學士 長島 毅	法學博士 上杉 慎吉	文學士 野田 義夫	法學士 久保 久	法學博士 山崎 覺次郎

法學士 山内 正曠 法學博士 矢作 榮藏 法學士 矢部 廉
 法學士 柳田 國男 法學士 山内 確三郎 法學博士 増島 六一郎
 法學博士 松崎 藏之助 法學博士 松波 仁二郎 法學士 松岡 義正
 法學博士 松本 烝治 法學士 松原 一雄 法學博士 牧野 英一
 法學士 前田 直之助 法學士 牧野 菊之助 法學士 松村 眞二郎
 米國法學 マスター 福岡 秀猪 法學博士 福田 徳三 法學士 二上 兵治
 法學博士 古賀 廉造 法學博士 小林 丑三郎 法學博士 江木 衷
 法學博士 寺尾 亨 法學士 青山 衆司 法學士 吾孫子 勝
 米國博言學 ドクトル 淺田 榮次 法學博士 青木 徹二 法學士 阿形 輝司
 法學士 阿部 壽準 法學士 楠原 幾久若 法學博士 齋藤 十一郎
 法學士 佐竹 三吾 法學博士 佐野 善作 法學士 木村 通
 法學士 湯河 元臣 法學博士 美濃部 達吉 法學士 三浦 惠一

法學士 宮内 國太郎 法學士 三木 猪太郎 法學士 三淵 忠彦
 法學博士 志田 鉦太郎 法學博士 清水 澄 法學士 島村 他三郎
 法學士 志村 義麿 法學博士 清水 泰次郎 法學士 島田 鐵吉
 法學博士 土方 寧 法學博士 平沼 騏二郎 法學士 泉 二新熊
 法學博士 關 一 法學士 關場 偵次 法學士 杉 程次郎
 法學士 須賀 喜三郎 法學士 菅原 春二

商科

法學士 市村 富久 石川 文吾 理學士 伊藤 萬太郎
 長谷川 方文 法學士 馬場 鏡一
 商學士 原 稜威雄 法學士 西川 一男 商學士 堀 光龜
 星野 太郎 文學士 千葉 勉 法學博士 岡野 敬次郎
 岡田 實麿 商學士 大久保 一男 大野 市太郎

米國文學
 マヂェラー

商學士 太田 哲三
 法學博士 河津 暹
 法學士 嘉山 幹一
 商學士 田崎 仁義
 法學博士 中村 進午
 中島 信虎
 法學博士 桑田 熊藏
 法學博士 松本 蒸治
 西郷 齊員
 法學博士 關 一
 理學士 石田 安治

法學士 渡邊 鐵藏
 鹿野 清次郎
 川村 貫治
 商學士 高島 佐一郎
 奈佐 忠行
 村林 專之助
 柳田 國男
 松浦 和平
 法學士 三浦 惠一
 法學士 杉 程次郎

法學博士 金井 延
 片山 寛
 商學士 瀧本 美夫
 商學士 根岸 信
 商學士 内藤 章
 商學士 上田 貞次郎
 法學士 柳川 勝二
 法學博士 佐野 善作
 商學士 茂木 英雄

理學士 石谷 傳市郎

大學豫科

文學士 葉山 萬次郎

ウィリアム・ハリズ

長谷川 方文

理學士 林 茂 增

文學士 堀 竹 雄

カール・ヘッセル

文學士 鳥山 喜一

文學士 千葉 勉

文學士 尾上 八郎

米國文學
バチエラ 岡田 實磨

米國文學
マスタ 和田 正幾

文學士 渡邊 又次郎

鷺見 龜五郎

理學士 加納 清三

片山 寛

文學士 金澤 卯一

文學士 上村 清延

文學士 高津 鉄三郎

文學士 竹村 昌次

商學士 田崎 仁義

理學士 根津 千治

文學士 村上 龍英

村田 祐治

米國文學
マスタ 山口 鑑太

山川 幸雄

柳澤 愼之助

松浦 與三左衛門

丸山 通一

理學士 藤原 松三郎

理學士 福田 爲造

文學士 手塚 光貴

米國博言學
ドクトル 淺田 榮次

文學士 青木 昌吉

文學博士 佐々 政一

文學士 齋藤 阿具

文學士 佐久 節

文學士 三浦 吉兵衛 理學士 平田 德太郎
 文學士 廣井 辰太郎 文學士 森 卷 吉
 文學士 鈴木 三重吉
 米國文學 マスタ 清田 龍之助

學友會役員

會長 法學博士 奧田 義人
 副會長 法學士 伊藤 悌治 法學博士 岡野 敬次郎
 幹事 佐藤 正之
 總務部長 法學士 伊藤 悌治
 學藝部長 法學博士 花井 卓藏
 體育部長 法學士 太田 資時

辭達學會長 法學博士 花井 卓藏

米國法學 マスタ 堀江 專一 郎

同副會長 高崎 介藏

經濟學會長 法學博士 桑田 熊藏

實業講話會長 法學博士 奧田 義人

同代理者 田中文藏

久米 良作

英語會長 米國博言學
ドクトル 淺田 榮次

同副會長 廣井 辰太郎

柔道師範 永岡 秀一

劍道師範 中山 博道

今泉 來藏

附 錄

一 中央大學圖書館

第一 本館ノ開閉時刻左ノ如シ

自一月八日至七月十日 午前八時開 午後七時閉

自七月十一日至九月十日 午前七時三十分開 同十一時三十分閉

自九月十一日至十二月二十五日 午前八時開 午後七時閉

第二 定期ノ休業日左ノ如シ

自十二月二十六日至一月七日

日曜日、大祭祝日、本學記念日(十一月十一日)

第三 本館備付ノ書籍ハ閱覽室内ニ於テ本學講師、職員、學員、學生、在外員、本學及ヒ圖

書館基金寄附者其他一般ノ閱覽ヲ許ス但酒氣ヲ帶ヒタル者其他閱覽ヲ許スヘカラスト
認ムル者ハ此限ニ在ラス

第四 圖書ヲ閱覽スル者ハ一日分金三錢ヲ會計係ニ納付シテ閱覽券ヲ申受クヘシ但學生
在外員ハ閱覽料ヲ要セス學生ハ聽講券、在外員ハ在外員證ヲ以テ閱覽券ニ代用ス

第五 既納閱覽料ハ事由ノ如何ヲ問ハス返還スルコトナシ

第六 本學講師、職員、本學及ヒ圖書館基金寄附者、學員ハ閱覽券及ヒ閱覽料ヲ要セス

第七 圖書館長ノ許可ヲ得タル者ハ一時ニ三冊ヲ限リ圖書ヲ借受ケ館外ニ携出スルコト
ヲ得但其携出期限ハ一个月以内トス

第八 本學學生ハ教科書ニ限リ圖書係ノ許可ヲ得テ教場ニ携帯スルコトヲ得
教科書ハ所定ノ保證金ヲ差入レシメ一定ノ期間自宅携帯ヲ許スコトアルヘシ

第九 公衆ノ閱覽ニ供スル爲メ圖書ヲ寄託セントスル者アルトキハ其求ニ應スヘシ
寄託ノ圖書ハ寄託者ノ承諾ヲ得タル後ニアラサレハ館外携出ヲ許サス

第十 圖書閱覽ニ關スル規定ニ違反シタル者ニハ一定ノ期間貸出又ハ閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

二 中央高等豫備校

第一 本校ハ高等學校、高等商業學校、高等工業學校、各專門學校、陸軍士官學校及ヒ海軍兵學校ノ入學受験者ノ爲メ準備教育ヲ施スヲ目的トス

第二 前項ノ目的ヲ達スル爲メ本校ノ授業ヲ臨時受験科及ヒ常設受験科ノ二ニ分チ英語(又ハ獨逸語)數學、物理、化學、博物、歴史、地理、國語、漢文等ヲ教授ス

第三 臨時受験科ハ毎年四月八日ヨリ授業ヲ開始シ六月三十日ニ至ル短期間ニ各科目ノ綱要ヲ摘示シテ簡明ニ其全部ヲ教授ス

第四 常設受験科ハ毎年九月十一日ヨリ授業ヲ開始シ翌年六月三十日ヲ以テ完了ス

第五 高等學校其他各專門學校ノ入學志願者益々増加スルニ隨ヒ其競争試験ハ愈々困難

ト爲ルヲ以テ本校ハ常ニ授業方法ニ留意シ一般講義、局部講義、時文及ヒ難句講義、擬試験等極メテ適切ナル方法ヲ採取シ準備教育上新機軸ヲ顯セリ

第六 教科書ニ付テハ世運ノ進歩ニ適應セシムル爲メ總テ講義案ヲ發行シ之ヲ各生徒ニ頒與シテ其進運ニ後ル、ナカラシメトナ期ス

第七 講義案ハ講師ニ依リテ其都度新ニ編纂セラレ其成ルニ隨テ印行スルモノナレハ新學說新問題ハ凡テ網羅セラレサルナシ該案ノ實質ハ左ノ緒言ニ於テ一端ヲ示セリ

講義案ハ本校講師カ苦心研究ノ結果各科ノ精神骨髓ヲ簡潔明瞭ニ摘示セラレタルモノニシテ漸次發刊學年ノ終尾ニ至リ總テ完結スルモノトス

講師ハ講堂ニ於テ講義案ニ依リ原理原則ヲ解説シ尙ホ其應用變化ヲ懇切ニ教授セララル學生諸氏退テ日夕之ヲ溫習センカ其造詣知ルヘキノミ

各種ノ試験ヲ受クル者ノ準備ヲ爲スニ當テヤ其切望スルモノハ詳論細說ニアラスシテ各科ノ要點ヲ摘記セルモノニアリ而シテ自ラ摘要ヲ拔萃スルモ其肯綮ヲ得タルヤ否ヤ

ニ付キ常ニ煩悶スルハ實驗者ノ直チニ想到スル所ナラム講義案ハ一面ニ於テ學識深邃ナル講師ノ手ニ成レル各科ノ摘要拔萃ナリ云々

三 中央大學學友會

第一 本會ハ會員ノ辯論及ヒ體育ヲ獎勵スルヲ目的トシ兼テ相互ノ親睦ヲ圖リ中央大學ノ學風ヲ發揮センコトヲ期スルモノトス

第二 本會ハ特別會員及ヒ通常會員ヲ以テ之ヲ組織ス本會ノ推薦ニ係ルモノヲ特別會員トシ中央大學學生ヲ通常會員トス

中央大學學生ハ本會ニ加入スルノ義務アリ

第三 本會ノ目的ヲ達スル爲メ總務部、學藝部及ヒ體育部ヲ置ク

第四 總務部ニ於テハ本會ノ庶務會計ヲ處理ス

第五 學藝部ニ辭達學會、經濟學會、實業講話會、英語會等ヲ置ク

辭達學會ハ會員ノ辯論ヲ練習スルコト、經濟學會ハ經濟、財政ノ學理ヲ研究スルコトヲ

主眼トシ執レモ隨時演說討論又ハ講話會ヲ開ク

實業講話會ハ實業ニ關スル研究及ヒ談話ヲ主眼トシ隨時學識經驗アル實業家ヲ招聘シ

テ講話會ヲ開ク

英語會ハ英語ニ熟達スルコトヲ主眼トシ隨時専門家ヲ招聘シテ演習會ヲ開ク

第六 體育部ニ於テハ會員身神ノ鍛鍊ヲ主眼トシ柔道、劍道、弓術、野球、庭球等ノ諸會ヲ

置ク

第七 本會ニ會長一名、副會長二名、幹事一名、委員若干名ヲ置ク會長ハ中央大學長ヲ以

テ之ニ充テ副會長及ヒ幹事ハ會長之ヲ任免ス又委員ハ通常會員中ヨリ會長之ヲ指名シ

其任期ヲ一學年トス

第八 通常會員ハ會費トシテ當分毎月金二十錢ヲ中央大學會計係ニ納付スヘシ

四 中央大學學員會

- 第一 本會ハ中央大學學員相互ノ交誼ヲ保全シ智識ヲ交換スルヲ目的トス
- 第二 本會ハ中央大學學員ヲ以テ之ヲ組織ス學員トハ左ノ資格ヲ有スル者ヲ謂フ一、元英吉利法律學校、元東京法學院、元東京法學院大學及ヒ中央大學ノ講師並ニ卒業生二、元英吉利法律學校、元東京法學院、元東京法學院大學、中央大學及ヒ中央高等豫備校ノ出身者ニシテ相當ノ位地ヲ有シ總會ニ於テ選舉シ又ハ學員十名以上ノ推選ニ依リ評議員會ニ於テ承認ヲ與ヘタル者
- 第三 本會ハ隔月一回演說討論會ヲ開キ又隨時談話會ヲ開ク
- 第四 本會ハ毎年二回通常總會ヲ開キ會務諸般ノ事項ヲ評決ス但會員十名以上ノ要求ニ依リ臨時總會ヲ開クコトヲ得
- 第五 本會ニ理事七名、評議員五十名ヲ置キ其任期ヲ一ヶ年トス理事長一名、理事副長一名ハ理事之ヲ互選シ評議員會長一名、副會長二名ハ評議員之ヲ互選ス理事及ヒ評議員ノ選舉ハ投票ニ依ル

五 中央大學實業同窓會

- 第一 本會ハ中央大學學員ニシテ實業ニ從事スル者、同大學商科卒業生、同大學學員ニシテ實業ニ關係アル職務ニ從事スル官公吏員等ヨリ成立シ會員ノ親睦ヲ圖リ各種實業ノ發展ニ關シテ意見ヲ交換シ兼テ後進ノ誘掖ニ任スルヲ目的トス
- 第二 本會ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ヲ設ク一、談話會又ハ懇親會ヲ開クコト二、實業上ノ調査視察ヲ爲スコト三、會員ノ消息調査ヲ爲スコト四、中央大學商科優等卒業生ニ記念品、各級優等生ニ賞品ヲ寄贈シテ之ヲ獎勵スルコト
- 第三 談話會ハ時々之ヲ開キ懇親會ハ春秋二期ニ之ヲ開ク但必要ニ應シテ臨時會ヲ開クコトアルヘン

第四 本會ニ會長一名、理事三名、常務委員五名、委員十五名、書記一名ヲ置ク會長ニハ申
央大學理事中ノ一人ヲ推シ理事及ヒ委員ハ會員中ヨリ選舉シ常務委員ハ委員中ヨリ互
選ス又書記ハ會長之ヲ命ス

五 中央大學實業同窓會

在外員募集

- 遠隔の地方に在り又は業務の爲め登校して授業を受くる能はず本大學講義録の配送を受けて法律、經濟を學修する所の在外員を募集す
- 在外員は何時にも入學を許す在外員の學年は十月を以て其始期と爲せとも目下各級初號より完備し居れり
- 在外員は之を法科、經濟科の二種に別つを以て入學の際は志望科目（法科又は經濟科）を特に明記するを要す
- 中央大學講義録は現學年の講義を載せ荷も陳套なるものを掲げず紙質良好印刷鮮明にして校正も亦精確なり
- 在外員の入學に最も便利なるは振替貯金用紙裏面の通信文欄内に入學する旨と住所姓名記入の上拂込の金圓及口座登記料壹錢を添へて郵便局へ差出すにあり振替貯金は簡便且つ安全なる送金方法にして其用紙は何處の郵便局にて無料にて貰受くるを得へし本大學の同口座番號は「東京第四七六二番」なり

大正三年八月

中央大學

大正三年八月

東京市神田區錦町貳丁目貳番地
中央大學

中央大學大學史編纂部
20100504